□11月12日主日礼拝説教短縮版（隅野徹牧師）

「あなたによって祝福される人」（創世記12：1～9）

創世記の12章は、ただ単に「歳をとったアブラハムが、リスクを冒して新たな旅立ちをした」ということが語られているのではなくて、「アブラハムを通して、世界の人が神の祝福を受けられるようになるために、そのための基になるようにと、神がアブラハムを招いていらっしゃり、それにアブラハムが応答したのだ」ということが教えられています。

7節では「あなたの子孫に、この土地を与える」と神は言われていますが、この時点では、子孫も与えられていませんし、「アブラハムが所有する土地」もまだ与えられてはいなかった…それでもアブラハムは「神に感謝をささげるため」に、祭壇をきづき、神を礼拝したのでした。

つまり、アブラハムが信じたのは「神が無から有を作り出すお方であること」そして「罪人をも特別に祝福して赦し、命を与えて生かすことのできる方であること」だったのです。時代を超え、民族を超えて、同じ信仰を持つ者が皆「私達も同様に神の前に義とされ、復活の命、永遠の命をいただくことができる」その基となるために、神はアブラハムを招かれ、そしてアブラハムも応えたのです。そのことによってここにいる一人ひとりも神から祝福を受けることができるようになっているのです。

アブラハムの旅立ち、その後の「先が見えない中でも、神と共に歩んだ」その歩みは「後代を生きる、全人類にとって」大きい意味を持つものとなりましたが、ここにおられるお一人お一人の「神と共に歩む人生の旅路」が「将来の山口信愛教会に集う人々にとって、またご自分の直接的な子孫にとっても、非常に大きな意味を持つ者になること」をぜひとも心に刻んでください。アブラハムが祝福の基となったように、私たちも「先が見えない中でも、神を信じて信仰生活を送る時」その歩みが祝福の基として用いられることを信じます。

疑いながら、迷いながら…それでも神を信じ、神に感謝や礼拝をささげながら人生の旅路を歩んでいきましょう。その姿が証しとなり、ご自分の後の世代のご家族や、将来の山口信愛教会が祝福されることを信じ、祈ります。

（終）